

◆講座名	英語の発音 (初級)
◆開催日 (回数)	2023年1月7日、1月21日 (各2回・計6回)
◆曜日	土曜日
◆時間	15:05-16:35、16:50-18:20
◆定員	15名

#### ◆講座内容

<p>目的：英語の発音に自信が持てないとか、勉強方法がわからない、等限界を感じ諦めることがないように発音方法を初歩から学びます。発音が下手でも英語は通じるとよく言われますが、外国人の方にとっては大きなストレスになります。発音に自信をもって外国人の方とコミュニケーションを図れるように通じない理由とその克服の仕方を学びます。</p> <p>英語の発音を習得するポイント</p> <p>①胸式呼吸方を習得する。  英語の発音で一番重要なことは大きな声で発声（腹式呼吸）します。日本人は胸式呼吸で発声するので、外国人の方にとっては声が聞こえないことが多く”Pardon?”と何度も聞かれ英語が通じていないと自信をなくしてしまいます。一番重要な呼吸方法を練習します。</p> <p>②r音の練習  [r]音の練習するためには、発音器官（口内の形、上顎の相違、等）個人差があります。1つの方法がすべての学習者に適しているとは限りませんので、各個人にあった方法（約15種類）で学習者に対応します。</p> <p>③アクセントとリズムを習得する。  日本語と英語のアクセントとリズムの相違を理解し、ネイティブに聞き取りやすい音の強弱とリズムを練習します。このリズムが身につくとリスニングの上達にもつながります。</p> <p>④英語の母音  日本語は5つの母音があり、英語は13の母音がありますが、すべての英語の母音を短期間で習得するのは難しいので、特にスペルから正しい母音を見つける導入をし、母音の曖昧音も注視します。</p> <p>⑤英語の評価方法は「発音博士」の発音自動評価アプリケーションソフト（無料）を使います。数字で点数が表示されますし、どの音が間違っているかを指摘してくれます。完璧な評価ではないかもしれませんが、手軽に即座に評価をチェックするには便利です。</p>
---

#### ◆目標、重点を置く学習内容

英語の発音の基礎の基礎になる複式呼吸法と非常に発音が難しいとされる米語の[r]音に重点を置く。これは発音方法の発音器官の位置は決まっているが、その方法に近づけるためには個人差があり、その個人にマッチした方法を見つけ指導する。
--

#### ◆受講対象者

初めて英語をネイティブのように発音したい学習者で小学校低学年レベルが対象者である。
---

#### ◆必須テキスト(受講に際し事前購入が必要なテキスト)

英語シリーズ 発音：洗練されたアメリカの英語 前編 株式会社言語研究所
-------------------------------------

#### ◆参考図書(講師推薦図書・購入は任意)

英語シリーズ 発音：洗練されたアメリカの英語 後編 株式会社言語研究所
-------------------------------------

#### ◆受講に際しての注意事項など

<ul style="list-style-type: none"> <li>・最少催行人数を設けております。最少催行人数に達しなかった場合には、講座を中止させていただく場合がございます。</li> <li>・講座の録音・録画・写真撮影は、ご遠慮ください。</li> <li>・講義中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードに設定してください。教室内での通話はご遠慮ください。</li> </ul>
--

#### ◆講座スケジュール (各回の講義予定)

回	日程	内容
1	1月7日	英語の発音で重要な腹式呼吸方法（大きな声を出す）の理論と実践と米語の[r]音の発音方法を学ぶ。[r]音の発音方法は学習者が取得できる方法を指導し、単音の[r]音から語頭(read)、語中(very)と(母音の[r] work)、語尾 (teacher) の位置に来るのを練習。自宅で「発音博士」を使い練習する。
2	1月7日	母音+ [r] (are, air, or, ear, sure)とアクセントとリズムの練習。文章は大文字から始まり最後のピリオドまで一息でアクセント、リズムを使い発音をする練習である。例えば、I live in Tokyo. 強く発音する単語はliveとTokyoであり、I—live—in--Tokyoのように単語一つ一つ発音せずにliveinTokyo.のように短文を一つの単語のように発音する。強く発音する単語はliveとTokyoであるがTokyoでイントネーションが上がる。
3	1月21日	[r]音は引き続き練習し、教室で確認する。 日本語にはない英語の母音の練習。ほとんど英語のスペリングの導入し、英語のスペルが”a”であれば95%ぐにゃっとした[a]の発音をする。例えばcat, hat, fast, mat等。 スペルが”o”であれば80%歯医者で抜歯するとき麻酔を使うのでその時は口が大きくあかない。そのまま”a”と発音になる。例えば、hot, not等。 このようにスペルの導入で重要な母音5つぐらい学ぶ。
4	1月21日	自宅で[r]音の語頭、語中、語尾の練習をし、「発音博士」で確認してもいい点数にならない場合は再度各学習者にアドバイスをし、最終的に簡単な英語のキャッチボールをし、お互いにアドバイスをする。会話の速度、学んだ発音に注意しながら、復習兼ね練習する。

#### ◆補講日

2023年1月18日または19日
------------------

#### ◆講師紹介

元青山学院大学教授、一般社団法人グローバル言語研究所代表理事。12年間米国に留学し、テキサス大学オースティン校から音声学で博士号取得。国際武道大学、会津大学、青山学院大学、武蔵野大学で教鞭をとる。(株)河合楽器製作とPC上で音声分析が可能なソフトを開発し、その後会津大学でSony株式会社とワークステーション上で発音を分析できるソフトを開発し大学のLML (Language Media Laboratory) に導入。旺文社、日本経済新聞社出版社から60冊以上の発音、TOEFL、TOEICの書籍を出版し、現在(株)Japan TimesでTOEFLに関する書籍が12刷りの増刷である。米国のカンサス大学ローレンス校と青山学院大学と提携し青山アカデミアの社会人講座「小学校英語指導者養成講座」を開講。
---